

知財戦略

「ソニーは挑戦することに実に寛容であり協力的であった」

— 新刊「ソニーがくれた夢 —人も知財も使いよう—」中村嘉秀著のご紹介 —

(株)リガク

弁理士 石塚 利博

中村嘉秀氏

本新刊の著者である中村氏は、元ソニー知財の統括責任者、元ソニーケミカル社長、元アルダージ社長を歴任しております。知財の大先輩であり、見識高く 10 年程前より日本ライセンス協会や 21 世紀構想研究会知財委員会で大変お世話になっております。

企業知財人の本

企業知財の大御所の方の本では、元ホンダの久慈直登氏の「喧嘩の作法-知財スペシャリストが伝授する交渉術」、元キャノンで弁理士の丸島儀一氏の「キャノンの特許部隊」「知財このひとにきく - 中小・ベンチャーよ、知財力で立ち上がれ！」等で企業の知財活動を大変興味深く読みました。

中村氏のこの本は、「私の履歴書」の如く氏の人生の総括として書かれた節があり、知財活動だけでなく経営や生き方を含めて大変興味深く、役立ちました。

「ソニーがくれた夢」

生い立ちから、土佐高校卒業後に米国南部の田舎町での 2 年の留学経験、敗戦後約 15 年にも拘わらず暖かく迎えられ黒人差別も経験し、ニューヨーク五番街のソニーショールムに掲載されたアメリカで初めて見た日の丸に感激した。

大学卒業時のソニー入社面接での盛田昭夫副社長との興味深いやり取りは、学生にも大変役立つと思います。

「上の人材ではないが、誰もやったことがない、世界初が当たり前の目標。嬉々として仕事に没頭する人が殆どであった。」との自由闊達さでの開発推進エネルギーが良く分かります。

大賀社長からの「人を大事にしろ。いかに多くの人が賛同してついて来てくれるかでお前の価値も決まる。」との教諭を中村氏は実行されたのだと思います。

「知的財産を生かすも殺すも、それは経営トップの力量と意識にかかっていると行って良い。」そのため、筆者は、知財部門長が知財での事業貢献を実践し経営幹部に理解して貰うのが大事と思っています。

中村氏は、テレビを含むデジタル時代での錯綜した膨大な数の特許の問題解決を個別ライセンスではなく、パテントプールでの解決を提唱した。画像圧縮の M P E G 2 のパテントプールを日米欧の主要企業が 4 年の歳月を掛けて合意し本技術に係る瀬品の普及に多大な貢献を果たしました。知財に係わ



らない経営者、サラリーマンの方も是非ご一読頂ければ幸いです。

—以上—